

大好きな給食は大切なたから物

菅原 みお

「一日一万二千食！」

わたしは、五年生になって初めて家庭科の時間に料理をしました。ほうれん草のおひたしを作っただけでしたが、とても大変でした。熊谷市の給食は、給食センターで作って、います。毎日約一万二千食の給食が、約百人の力を合わせて、三時間ほどで調理されて、配送されて、わたしたちのおなかに届くそうです。

また、こん立を考えてくれている栄養士さんは、わたしたち小学生や中学生がずくと健康でいられるように、特に栄養バランスなどに気を付けてくれているそうです。

わたしのむいおばあちゃん（九十七才）もわたしと同じ熊谷市の小学校出身です。給食のことを聞いたら、わたしたちの給食とは全然ちがうことがわかりました。おばあちゃんが小学生の時に毎日白いご飯に梅ぼし一つのせた日の丸弁当を学校に持って行っていい

たそうです。給食という制度は当時の熊谷市にはまだなく毎日朝ごはんの一部をお弁当箱につめて学校に行っていたそうです。給食とは関係ありませんが、赤ちゃんの兄弟をおんぶして学校に通っている子もいたそうです。給食はなくても、友達と一緒に食べるお昼ご飯はとても楽しい思い出の一つだよと話していただきました。

給食の話も、七十二才のわたしのおひいちゃん（奈良小学校卒業）にも聞いてみました。

小学校の時には、ひいおばあちゃんのところは変わって、給食があったそうです。アルミ製の食器に、パンがぬく、だし粉にうま味調味料、牛にうやスープが配せられて、食べおいしくはなかつたそうです。が、ワジュウのたつ田あげはおいしかったそうです。

わたしは、家族に話を聞いて、今熊谷市の給食センターで作ってくれている給食のありがたみが、よくわかりました。給食の始まり

は百三十五年前だとお父さんが教えてくま  
したか、実際に全国の小学校が食べるこ  
とができるようになったのは、約八十年前  
からだ。そうです。今わたしたちは、学  
校のある日に当たり前のよう給食を食  
べるこたができています。このことはあ  
たり前ではなく、いろいろな人たちの努  
力によつて、わたしたちが給食を食べる  
こたができる制度ができた。こたがわか  
りました。歴史を知つて、給食への感  
謝の気持ちが強くなりました。

わたしは、給食に入つているレバーが  
好きです。好きなこん立の日は、朝か  
ら勉強ががんばれます。苦手な魚のこ  
ん立の日も、体の成長のためにかん張  
つて残さず食べています。食べている  
うちに、魚が好きになりました。給食に  
かかわる仕事のみなさん、いつもお  
いしい給食ありがとうございます。中  
学校卒業まであと四年間、よろしく  
お願いします。